



〈特別講演会〉

ポーランド・アイヌ・北海道
〜交流の歴史から

ブロニスワフ・

ピウスツキの遺したもの

2023 **3/4** (土) 18:30~20:30

札幌エルプラザ
4F 大研修室 (北8西3)

昨年暮れブロニスワフ・ピウスツキの孫、木村和保氏が亡くなりました。また、今年は没後 105 年、旧ポロトコタンにピウスツキ記念像が建立されてから十年になります。

ブロニスワフ・ピウスツキ(1866-1918)は、樺太に流謫され 19 年の歳月を極東で過ごしアイヌ・ニブフ・ウイльтаなど極東先住民研究に従事し、この分野では草分けと評価されています。1980 年代半ばに北海道大学がピウスツキの収録した蠟管の音声復元に成功し、「アイヌ民族の最古の肉声」の復元が話題になりました。

二人の講師をお迎えし、このポーランドの優れた民族学者の遺したものについて考えます。

講演 I

ブロニスワフ・ピウスツキが
集めたアイヌの衣類
佐々木史郎
(国立アイヌ民族博物館)

講演 II

ピウスツキが来たころと、
その後の樺太アイヌの歩み
田村将人
(国立アイヌ民族博物館)

どなたもご参加いただけます。入場無料、定員 60 人、先着順 (予約推奨)、開場 18:00

お問合せ・予約先 : hokkaidopolandca@gmail.com, 080-4071-0956 (安藤)

感染対策 (マスク着用、手指消毒) をお願いします。会場内の撮影は主催者に限ります。

(謝辞) この度、株式会社三菱 UFJ 銀行様から (同行札幌支店とは別に) 銀行本部の社会貢献活動の一環として実施される『役職員自身が企画実施する社会貢献活動』の取組みの一つとして、弊会の活動に対し 50 万円のご寄付があり、その一部を当講演会に活用させて頂くことになりました。篤く御礼申し上げます。当日は寄付金贈呈式が予定されています。

=上図= アイヌ衣装を着たブロニスワフ・ピウスツキ、絵 アドマス・ヴァルナス 1912、ユゼフ・ピウスツキ博物館蔵
=左下&裏面中左 図= 紙芝居「遠い遠い東の国で有名になったブロニスワフ・ピウスツキ」より、絵 パウリナ・バジチェラ

講演 I

ブロニスワフ・ピウスツキが集めたアイヌの衣類

佐々木史郎 (国立アイヌ民族博物館 館長)



ブロニスワフ・ピウスツキはサハリン滞在中や北海道調査で多数のアイヌ民族関連の資料を収集しています。その中には衣類や繊維製品がかなりの量で含まれていますが、それらには当時の優れた織り、編み、縫製、刺繍の技術と美的センスが輝いています。サンクトペテルブルク、ユジノサハリンスク、ウラジオストクなどの博物館に収蔵されているピウスツキ収集の資料を紹介しながら、それらの資料をアイヌの文化復興にいかに関与すべきかについて考えます。

講演 II

ピウスツキが来たころと、その後の樺太アイヌの歩み

田村将人 (国立アイヌ民族博物館 資料情報室長)



1902～05年、ピウスツキはロシア帝室科学アカデミーの委嘱によりサハリン南部でアイヌの村落を訪ねて言語や文化の調査を行い、多くの成果を残しました。1905年ポーツマス条約によってサハリン南部が日本領となり、樺太アイヌは日本国民となり、1945年以降ほとんどが北海道へ移住しました。ピウスツキが残した資料とともに、樺太アイヌがたどった20世紀前半の歴史と社会状況についても考えます。

○アフタートーク(感想、質疑応答など)



ブロニスワフ・ピウスツキ記念像
除幕式, 旧ポロトコタン 2013.10.19

＜左から＞
故木村和保氏
W.コヴァルスキ氏
(ブロニスワフの末妹の孫)
J.ロドウィッチ
元駐日ポーランド共和国大使

←右から> C.コザチェフスキ
駐日ポーランド共和国大使 (当時)
安藤厚 北海道ポーランド文化協会会長



B.ピウスツキ百年忌
旧ポロトコタン 2018.5.17



B.ピウスツキ 104 年忌、ウポボイ 2022.5.17

＜左から＞野本正博 文化振興部長、安藤厚 会長
井上紘一 北大名誉教授、佐々木史郎 館長

